

石垣市民意見交換会

日 時:令和6年8月1日(木)19時～21時

場 所:石垣市民会館大ホール

主催者:石垣市

参加者:沖縄県、総務省消防庁、内閣官房、住民213人、マスコミ17社(フリーランス含む)

次 第:1. 沖縄県国民保護共同訓練に係る住民避難の考え方(案)の説明(石垣市)

2. 特定臨時避難施設の概要説明(石垣市)

3. 住民との意見交換

意見交換内容

【意見1】

- ・ 航空機の安全について、滑走路上に敵から障がい物を投げ込まれた時の対応はどう考えているか。
- 今回の共同訓練においては、「武力攻撃予測事態」という想定。日本に対し武力攻撃が行われていない段階で住民の島外避難をする計画。(防災危機管理課長)
- 今回の計画では、障がい物を投げ込まれている状況は想定していない。武力攻撃が行われていない状態での避難計画となる。それ以上の状況についてはどのような対応をするかは、今後調整していきたい。(市長)

【意見2】

- ・ 私は聴覚に障がいがある。情報保障が必要。情報を得るためには、飛行機やバスで通訳する人などが必要と考えている。また、障がい者の名簿を作成して、継続的に意見交換できる場を設けてほしい。
- 要配慮者には障がい者も含まれている。まずは要配慮者の人数の把握から始めており、今後どのように情報を伝えていけるのか検討していきたい。(防災危機管理課長)
- 障がい者などの配慮を要する方が孤立しないように、意見交換会等も実施させていただきながら、検討を進めていきたい。(市長)

【意見3】

- ・ 今回の意見交換は避難要領についてなのか、沖縄県訓練についての説明なのか。訓練の話であれば、住民参加型の避難行動の訓練ではないのか。また、事態には色んなパターンがあると思うので、予測が困難なものもある中で、最悪のパターンを想定した検討はしているのか。
- 現在取り組んでいるのは、武力攻撃予測事態に認定された時の島外避難についての検討を行っている。(防災危機管理課長)

- ・実動的な訓練もやるのか。

→津波避難訓練のイメージではなく、図上訓練として関係機関と検討・課題を洗い出しながら最終的に避難実施要領を作成したいと考えている。(防災危機管理課長)

- ・最悪の事態は想定しているのか。

→最悪の事態について、どのような状況か不明だが、現在の訓練想定（武力攻撃予測事態）で課題を洗い出していきたいと考えている。(石垣市長)

【意見4】

- ・避難は何日間を想定しているのか。荷物はどのような考えで整理したのか。避難先においては仮設住宅などの家は準備されているのか。

→現在の検討では、約6日間で避難できる輸送力の確保が見込まれている。避難先の検討は、九州知事会において、仮定の受入れ先が示され、今後具体的な検討されていく。長期の避難に備えるための荷物別送も今後検討していく予定としている。(防災危機管理課長)

→受入の検討については、九州・山口を仮定で想定しているが、まずは当面1か月として各県で検討を始めていただいている。ホテルや旅館で避難住民を受け入れることなどを検討している。(内閣官房)

- ・避難と疎開は何が違うのか。

→避難は国民保護で規定されている。疎開は戦前にリスクの高い地域から高齢者とか女性が逃げること。(内閣官房)

- ・住み慣れた地域で一生を終えたいと思うが、そのようなことは出来ないのか。

→全員で避難することが原則。避難誘導等で最終段階まで残る人もいるが、基本は避難を全員していただくことになる。(市長)

【意見5】

- ・武力攻撃予測事態の前に情勢悪化とあるが、具体的にどのような形で有事となるのか理解できていない。避難の理由になるものが曖昧ではないか。中国と台湾の関係で有事が起こると言われている理由、そのような議論をするべきではないか。

→訓練においては特定の事態を想定していない。島外避難に関する具体的な要領を作成していなかったため、国や県などの関係機関と避難をするうえでの課題を洗い出して検討を重ねている。(防災危機管理課長)

→広域避難に関する要領を作成するために検討しているものであって、特定の事態を想定したものではない。武力攻撃予測事態という事態における避難を検討していることをご理解いただきたい。(内閣官房)

→武力攻撃予測事態の時に、住民を避難させることを目的としているので、具体的な想定までしていない(市長)

【意見6】

- ・武力攻撃予測事態を認定した時に国民保護を行うことは理解したが、このような事態であれば、自衛隊や米軍の行動と国民保護との競合が発生するので、住民避難だけを行うことは難しいと思うがどうか。また、そのような状況においては、安全の確保が難しくなるので、民間航空機は運航できるのか。
- 万一の場合に備えてどう住民避難ができるかを検討している。住民避難で自衛隊や米軍の利用は想定していない。あくまでも民間の輸送力での避難を検討しており、ご意見をいただきながら、検討を進めていきたい。(防災危機管理課長)
- 民間の船舶や航空機を使用して避難することを想定している。自衛隊などが部隊展開するときには避難することはない。現在、民間航空機は空港の通常運用時間で検討しているが、場合によっては、24 時間運用して、早く避難するような検討も可能性としてある。(市長)

【意見7】

- ・防災公園は 3.2 ha で一人あたり 2 m²であり、単純計算で 16,000 人ぐらいの収容人数のイメージか。また、シェルターへの避難期間は約 2 週間程度と説明がされたが、避難要領の検討については当面 1 か月としていると説明があり、想定がバラバラだなと思った。もっとたくさん（複数個所）のシェルターを検討していくべきではないか。今回の意見交換会に県は参加しているのか。
- ダイヤモンドプリンセス号や対馬丸でも数千人単位で乗せることができるが、5 年間で 43 兆円の防衛費がついているのに、住民避難に活用する船舶の確保ができていないのはどうなのか。
- シェルターの件は、あくまでも付帯設備などもあるので一概にこの数字にはならない。収容人数について、全島避難をするのが基本だが、島内を誘導するために残る職員や天候等の理由で飛行機が飛ばず島内に残らざるを得ない方の避難のために整備するものであり、そういった観点から現在検討を進めている。また、そのような観点から複数個所ではなく一か所に整備することが望ましいので今回の計画となっている。(企画部長)
- 船舶の確保については、沖縄県にて候補船を洗い出しているところ。宮古島と沖縄本島の間（近海区域）を航行できる船舶の洗い出しを進めているところ。(防災危機管理課長)
- 現在、近海区域を航行可能とする船舶を洗い出している。クルーズ船については、カボタージュ規制などの課題を踏まえて検討しているところ。(沖縄県防災危機管理課長)
- ・説明を聞いて、避難要領もまだまだ決まっていないところが多いと思うが、今日、意見交換会をしなければいけなかった理由はなにかあるのか。
- 理由として、6 月に仮定の設定になるが受入れ先に関する報道があり、市民の方々の関心も高いと思い、この場を設けた。現状、課題が多くあることもお伝え

させていただき、色々なご意見も賜って今後の検討に繋げていきたい。(防災危機管理課長)

【意見8】

- ・シェルターについて、来年から工事に着工する可能性があるとのことだが、車いす等の障がい者の要望を踏まえてしっかり取り組んでいただきたい。
- 特定臨時避難施設は防災公園の地下に予定しているが、通常は地下駐車場として活用できるように考えている。障がい者の方の利用も想定しているので、通常の公共施設を計画する時と同様に障がい者の方も利用しやすいように設計していきたいと考えている（市長）
- ・手話通訳者の人数が少ないこともあり、避難をする時は困難なこともあると考えている。施設設備をする際にも意見を言える機会を作ってほしい。
- 施設に誘導灯を設置するなど、今後、意見交換していきたいと思う。（市長）

【意見9】

- ・シェルターの場所が何故市役所の近くなのか。もっと人口が過密なところに作るべきではないか。
- 現在、案として示している場所（防災公園）については、災害時等でも活用できることも踏まえて検討している。国からは地下施設として提示されているので、防災時の活用なども踏まえて防災公園地下を検討してるところ。これとは別に、緊急一時避難施設として他のエリアにも地下を整備することも構想としてはある（企画部長）
- 公共施設の地下に作るということになっているので防災公園の近くに作ることになる。最後にどうしても残る行政職員や天候等で避難に遅れた住民がシェルターに入ることを想定している。私としては入れる人数は1000人～2000人くらいをイメージしているが、現在、具体的な数字は、国とも話をしながら検討中である。国からの財政支援との兼ね合いもあるので規模や収容人数は、今後検討していく。（市長）

【意見10】

- ・防衛省の助成事業を活用が可能か調整すると記載してあるが、それができなければシェルターつくれないのか、はたまた、市民の税負担が増えることになるのか。
- 国から考え方が示されたところだが、整備は先島諸島の市町村が対象とされたところ、国からも財政支援を行うとされているが、具体的な財政支援については国で検討中となっている。市としての負担についても出てくると思うので、議会にも上げさせていただき、ご理解を得たいと考えている。（企画部長）
- ・そうすると、結局のところシェルター建設にあたっては、市議会も通すということとは市民の税負担が増えることになるということの良いのか。

- 本施設は、万一にはシェルターとしているが、通常は地下駐車場として活用したいと考えている。地下駐車場として整備する場合は市の負担となるが、今回特定臨時避難施設の整備で、国からの財政支援があることになっているので、国には補助率10割を目指してほしいと思っているが、通常は地下駐車場とする形なので、ある程度の市の負担は生じざるを得ないと考えているが引き続き調整していきたいと思う。(市長)
- 国の財政支援を行っていくことを基本的考え方にも記載させていただいている。その財政支援をどういった中身とするかにおいては、収容人数や施設規模等も含めて石垣市とのよく話をさせていただき、引き続き検討を進めていきながら、関係省庁において内容を議論していく。(内閣官房)

【意見11】

- ・説明を聞いていて戦争時の避難などの話を聞くことは非常に恐ろしいと思った。日本大学の吉富教授の講演では、有事の予見は困難とされていて、島外に避難することは困難になるとの話があった。避難できない方や避難したくない方用にシェルターを設置するためには多くのシェルターが必要になるのではないかな。まずは戦争を起こさせないように取り組むべきではないか。
- シェルターの規模は検討中です。講演会で言っていたのはそれも考え方の一つ。現在は、島外避難するためにはどのような課題があり、どのような解決策があるのかを検討している。戦争をしないように外交も含めて、その仕組みづくりなどは国に対しても要望していく。シェルターについては、規模を検討中で、国に要望をあげていきたい。来年には事業着手していくような整備計画を予定している。(市長)
- ・外交的にも求めていくとの回答があったが、日米合同訓練などがあるなど、軍事的な訓練も続けられているので、市も含めて関係者の皆様については、外交についてもしっかりと認識いただきたい。